



2016年 秋季号

平成28年11月発行 通巻第5号

# 人生を拓く

『同窓会報』改題



(南禅寺/SC写真クラブ 戸田尚一郎)

## ■目次

- P2 … 第3回定期総会を開催 会員82人が出席し委任状提出は274人。全議案を承認  
新会長挨拶:「公益的な性格」を持つ事業の展開も / 平成28年度役員と体制
- P4 … ご無沙汰しております—あときの先生は今。 第⑥回 ハングル学科 林吉承先生
- P6 … 連載⑤ ストップ・認知症 同窓会主催 第2回 『認知症サポーター養成講座』を開催
- P8 … 活動支援・クラブ活動 会員募集中! 3団体と14クラブの紹介
- P9 … 人間探訪 第④回 高須晴子さん 保護司32年! 瑞寶雙光章を受章
- P10 … こんなことあんなこと 同窓会がからむニュースから
- P12 … 告知板 編集後記 ご協力のお願い / 同窓会ホームページ

「さやま市民大学同窓会」は皆様の貴重な会費で運営されています。

## 第3回 定期総会を開催 6月22日

会員82人が出席し委任状提出は274人 全議案を承認

さやま市民大学同窓会の第3回定期総会が6月22日の13時00分から狭山市市民交流センター1階のコミュニティホールで開催された。

会員の出席者は82人で、委任状提出が274人あり、合わせて356人は会員総数590人の60%に当たり、総会成立の適格条件である過半数を満たした。



来賓として、NPO法人さやま協働ネット代表理事・土田博さん、同窓会名誉顧問・嵯峨座晴夫さん、同窓会名誉会長・清水滋男さん、市市民部自治推進課長・濱田美佳さん、市社会教育課主査・遠藤仁美さんの5人の列席をいただいた。土田さんと嵯峨座さんにはご挨拶をいただく。

次いで議長に橋本光明理事を選出、議案審議に入る。第1号議案の平成27年度事業報告は拍手で承認され、27年度収支決算報告は、収入1,043,031円（前年繰越金605,906円）、支出1,043,031円（次期繰越金314,040円）であった。坂井敬一監事の監査報告は、これを拍手による賛成で承認された。

次いで第2号議案の平成28年度事業計画（案）および収支予算（案）が承認される。予算は収入945,548円、支出945,548円（次期繰越金155,148円）となっている。

第3号議案の会則の改定では、①第17条に隔月開催の役員会のほかに「三役会」を設ける ②第18条で役員会と三役会の決議方法を設けるは、拍手多数で承認される。

第4号議案の新年度の役員体制と業務分担、ならびに諸井寿夫会長の退任と中嶋亨新会長ら28年度役員を選任および役員体制が承認された。

これで、全議案が拍手で承認され、14時38分に総会は無事に終了した。

第2部として、同会場では15時から会員交流会があり、小谷野剛市長も参加された。

### 来賓2人のご挨拶（要旨）

●NPO協働ネット土田博代表 私どもと市民大学同窓会には強い絆があります。今年から協賛講座のパソコン初級・中級を同窓会にお願いしたのを始め、他にもいろいろご尽力をいただいております。これからも連携を図りながらタッグを組み、お互いの信頼関係を基に、より一層のご協力をお願いしたいと思います。



●嵯峨座晴夫同窓会名誉顧問 同窓会の方々が多方面で活躍されておられる様子を会報などで知りとても喜ばしく、頼もしく思っております。本日は市議会最終日で市長・議長・行政の方々が参加されておらず残念に思います。こういう場にこそ参加していただき、皆様と交流していただいた方が良かったのではないかと思います。



### ■退任挨拶 諸井寿夫会長

2年前の3月に松倉会長の突然の逝去にともないその代行業を4カ月間務め、6月のSSCC同窓会の発展的解消とさやま市民大学同窓会の発足で会長に就任し、2年間を全うすることができました。これもひとえに会員の皆様のご支援があつてのことと感謝を申し上げます。この間、特に印象にあるのは認知症予防講演会の成功でした。またこの4月からはSSVCが中心となって市の事業の「茶レンジスクール」がスタートしています。これからは中嶋新体制のもとに一層の躍進を期待しております。



## 『同窓会って何をしている会なの?』との疑念の払拭を

会長 中嶋 亨

SSCCがスタートしたのは2000年(平成12)の9月でしたが、その2年後に修了生の有志で同窓会が立ち上がりました。その後、2014年には元氣大学と統合してさやま市民大学となり、今年で3期目に入っています。

同窓会はこの14年間に渡り会員の皆さまのご支援でつつがなく存続してこられました。そして今日、私はその4代目の会長に就任いたしました。この重責をさらに発展させ、微力ながら任務を遂行していく所存です。

同窓会会則の第4条にはその目的の1つに、「習得した学びの成果を地域社会に寄与する」とあります。私に与えられた役割は、この目的を達成するための取り組みをどうやり遂げるかです。

そのためには、同窓会の存在が市民の皆さまから認知されるとともに、期待を持たれ、評価をいただけるかにかかっており、その検証も欠かすことはできません。

現在、同窓会は「活動支援部会」と「クラブ活動部会」の2つの部会で構成され、所属する活動は多岐に渡っております。その陣容をみますと、多彩な知識や経験を持ち合わされた人たちが多く、地域社会に貢献するための協働事業にも日々精進しておられるのです。

同窓会は現在、約590人の会員で構成していますが、先達が成し遂げてきた活動を継承しつつ、この先は更なる社会貢献事業の進路を模索し、それに勤しんでいく所存です。そしてまた、「狭山市にとって特別な団体である」と市民の皆さまから一目置かれ、行政の方々にも認識していただく

ことが、私に課せられた使命との思いでいっぱいです。そして、同窓会の活動は今まで以上に「公益的な性格」を持つ事業を展開していくことこそが、必須条件であると信じています。

「活動支援部会」は公共性のきわめて強い社会事業であり、公益的事業と認識できるものです。また、14ある「クラブ活動部会」は、例えば「生きがい学科の会」は今年3月に市の長寿健康部と共催して「認知症予防講座」を開催しましたが、これには多くの市民が参加され好評を博しました。このように、どこもが積極的な活動を展開しているのです。

しかしながら、各クラブ活動の現場では、一部の方々からの評価はいただけても、大方の市民の皆さまの認知は希薄で、「同窓会って何をしている会なの?」との声が多く聞かれるのも事実です。

この現状を払拭するためには、会員の皆さまが実践して結果を残してこられた成果を、市民の皆さまに認識していただくために、『さやま市民大学同窓会 一社会活動事例報告書』(仮題)を発行することにいたしました。具体的には活動支援の3団体の事業実績を掲載し、クラブ活動は14クラブの活動実践や計画を合わせて記載いたします。来年5月ごろを目途に発行し、市内の公民館など公共施設に配布して、市民の皆さまや行政の方々にも目を通していただこうと思っています。

これから先は、市民部協働自治推進課や、さやま市民大学、さらにはNPOさやま協働ネットとの連携を一層深め、ご支援とご協力を賜りつつ進めていきます。よろしくお願いいたします。

### 平成28年度役員と体制

#### ◆理事 (21人)

荒井 茂夫	中山 啓子
覆平 芳恵	野地秀多朗
印牧 秀子	花倉ケイ子
高羅 尚典	細井 弘子
小林 宏子	水村美江子
佐藤 武 (新任)	六車 徳誠
鈴木 強	麦生田 栄 (新任)
高野 優子 (新任)	三保谷房子 (新任)
登坂 セキ (新任)	山下 則雄
中岡 義	横田 桂子
中嶋 亨	

#### ◆監事 (2人)

中山 眞男  
橋本 光明 (新任)

#### ◆退任/理事

井口 孝之  
諸井 寿夫  
庄司 一之  
森 博  
山田 信子

#### ◆退任/監事

坂井 敬一

#### ◆役員体制

会長	中嶋 亨
副会長	鈴木 強
副会長	野地秀多朗
副会長	細井 弘子
事務局長	高野 優子
会計主幹	高羅 尚典

#### ◆事業推進室

室長 六車 徳誠

#### ◆広報・広聴委員会

委員長 中岡 義

#### ◆活動部会

会長	鈴木 強
支援部会代表	水村美江子
クラブ部会代表	木全 秀雄

# ご無沙汰しております —あ那时的先生は今。

## 第5回 ハングル学科 (初級入門・中級・上級)

イム キルスン  
**林 吉承 先生**

【林吉承先生のプロフィール】韓国全羅北道群山市生まれで、52歳。同市の高校で日本語と出会い、大学では日本文学科を専攻。卒業後、日本の上智大学に留学し、アルバイト先で知り合ったご主人と結婚。子供は一男一女で共に大学在学中。趣味は「仕事」で、ハングル教室は市民大学など10クラスで。ほかではヨガ。食べ物では魚料理と寿司が好き。料理が得意で以前は授業でビビンバの調理実習も。来日して人生の半分の25年を超えたが、ひたすら韓国語講師と日韓文化友好交流に全力投球である。

【ハングル学科の沿革】ハングル学科はSSCCの開設と同時の2000年(平成12)9月に「入門」コースがスタートし、翌年の第2期からは「初級」と「中級」に分かれ、第3期の02年だけは「上級」も加わって3コースになりました。07年の第8期からは「初級」だけに戻り、12年の13期まで継続しました。その後13年と14年の2年間は休講しましたが、15年からは市民大学の協賛講座「韓国語講座」として復帰しています。SSCC13期間の修了生の総数は367人に上り、市民大学と合わせると375人になります。この実質15年間の講師を最初から今も続けられているのが林吉承先生です。(構成 中岡 義)

●非常に失礼ながら、私は先生のお名前を初めて拝見したとき、てっきり男性の方かと思いました。韓国では「林吉承」という名前から性別がわかるものでしょうか。

この名前は男性の方が多いいものの女性にもいて、この漢字だけで性別は判別できません。韓国国内での生活ではすべてハングルなので、この漢字を使うことはないです。漢字名があるのは昔の名残りです。日本では役所や免許証は「リンキッシュョウ」です。さすがに日本でも「ハヤシ」と呼ばれることはありません。

●日本語との出会いはいつで、その言葉に興味が持てましたか。

全羅北道の高校2年のときは日本語が必修で、週に3時間ほど漢字やひらがなを習いました。特にひらがなが面白くて、直ぐに好きになりました。そして、日本も好きになって、大学では日本文学科を専攻しました。川端康成や夏目漱石の作品も読みました。

●日本へはいつ来られたのですか。その印象はどうでしたか。

大学を出て日本に留学したのです。海外に出るのは初めてでしたが、日本人は韓国人と顔が変わらなかつたのがうれしかったです。アルバイト先

で今の主人と知り合い結婚しましたが、住まいは主人の勤めと私の四ツ谷の大学にも通える狭山にしました。市民会館の隣りでした。

●ハングルの講師になったのはどんなきっかけからでしたか。

もともと教えるのが好きだったこともあります。しかし、SSCCの開設から13期生まで講師を務めさせて頂けたことは、私の人生の大きな起点となりました。その中でも、新米講師の私と1期生との出会いは情熱と心でつながりました。

その後に出会う受講生たちに、講師として自信感(㊦日本語での「自信」の意)を持つことが出来たのです。13年間に渡って出会った受講生たちと私はSSCCの文化祭や体育祭

の活動を楽しみながら、情熱あふれる涙や感動で達成感を味わいました。そして、心が通じ合って日韓文化交流の夢を実現する源となったのです。

●受講生募集案内には講座のねらいを「韓国語や韓国文化に触れ、日韓文化交流を行い両国の友好を深める」とあります。1期生との出会いの幸運が、この講座のねらいを達成させるスタートだったということですね。

私は日本の人たちの情熱と温かさを韓国人にも伝えたくなりました。1期生13人の受講生たちに、日韓文化交流の架け橋になりたい、日韓文化



交流の扉になりたいと夢を話しました。そこで03年に立ち上がったのがNPO法人「ハンマウムの会」でした。(㊦ハンマウムは「1つの心」の意)。

そこで2年間、日韓文化交流活動を進めました。一番に、受講生たちが学んだ韓国語を生かして、狭山市民会館の舞台と韓国のが母校(大学)の文化ホールでお芝居を披露しました。また日本で子供が生まれて結婚までの様々な節句に合わせて着る着物を紹介するなどの交流も行いました。

もっと大きく日韓親善交流を行いたくて、「ハンマウムの会」を辞め、13年に私は新しくNPO法人「モヨラの会」を設立しました。そして今は、1期からの何人かを含めて62人の会員と毎年日韓親善文化交流に関わる事業を進めています。

●「モヨラ」ってどういう意味ですか。その会での活動をもう少し話してください。

モヨラは「集まれ」という意味です。活動でいえば、狭山市駅西口前の市民広場で韓国フェスタを行い、韓国の伝統踊りや音楽、料理を披露したりします。去年は国際フェスタを開催しました。また、隔年で40人程が韓国に行き、ホームステイをして本場のキムチ漬物を教わったり、日本のお祭りを再現したりしています。

今年は9月末から10月にかけて、韓国第一の規模のお祭りである「地平線祭り」に40人ほどで参加して、日本のお祭り文化を披露してきました。この「地平線祭り」は私の故郷に近い金堤市で5日間行われる大規模なものです。そこで私たちは韓国人に、日本の凧作りや飛ばし方、そば打ちとその試食、茶道体験、浴衣体験を行いました。また、子供たちに楽しんでもらおうと、竹トンボ飛ばしや金魚すくい、お手玉、ヨーヨー釣り、けん玉、盆踊り体験なども行いました。

●なるほど、日本ではもはや廃れつつある伝承遊びを、彼の地へ出かけて再現されているとは驚きました。ところで「日韓親善」というと、政治と結び付けて見られることもあるのでは。

現地の人たちは、日本の報道で伝わっている日韓関係とは全然違います。大歓迎で親切に受け入れてくれます。むしろ日本人より熱い気持ちを表現します。政治ではやり切れない日韓関係を、

私たち民間人が交流して親善を実現しているのです。私は自分のやっていることが有意義かどうかは、いつも自信があるわけではないのです。しかし、やってみないとわかりません。失敗したら、次は改善すればいいのです。会員が心を1つにして少しずつ力を試して、もっとグローバルに日韓交流を深めていきたいと思っています。

●これからの夢は何ですか。

今後も韓国と日本で文化を披露する企画をやっていますが、将来に韓国へ行ってやりたい夢があります。それは、迫力あふれる「よさこいソーラン踊り」を、思いっきり韓国のの人に見てもらうのが最大の願いです。1つのチームだけでなく、子供が踊るソーラン、青年が踊るソーラン、一般人の踊るソーランを見せたいのです。100人くらいが参加して、韓国でよさこいソーラン



の競演を行いたいのです。

●ところで、「韓ドラ」ブームとか「嫌韓・反韓」「ヘイトスピーチ」といった日本のゆれ動く世情の中で、市民大学の受講希望者が以前にくらべ減ったりしていますが、これらの状況をどのように感じておられますか。

受講生の減少は詳しくはわかりませんが、これも時代の流れで、仕方ないと思っています。この流れがまたどう変わるかわかりません。ヘイトスピーチにしても、私は極力耳を貸さないようにしています。あのような人たちはかわいそうで残念な人生だな、と思っています。いずれにしても、私は自分が目標としていることに全精力を傾けることには変わりありません。

●ハングル学科を修了した人たちに、また、これから学ぼうとしている人たちに、先生からメッセージをお願いします。

修了生の皆さん、今も韓国語やドラマ、音楽などを楽しんでいらっしゃいますか。学んだハングルの思い出しながら、これからも楽しい時間をお過ごしください。

そして、韓国や韓国語に興味のある皆さん、隣国の文字を知るの面白いものです。ハングルは「知性」のある言葉だと思っています。ドラマなどからも韓国の文化を知るとともに韓国に関心を持ってほしいです。よろしければ、韓国語講座に参加してみませんか。

## 連載③ ストップ・認知症

### 認知症になっても、安心して暮らせる、まちづくりを

市民大学同窓会では、9月16日に元気プラザで「認知症サポーター養成講座」を開催しました。市の長寿健康部介護保険課の協力を得ての、昨年9月に続く第2回目で、36人の会員が受講した。

狭山市の高齢化率(65歳以上人口)は28.8%で、東京五輪の2020年には32%、30年には35%への増加が予測されています。現在市の介護認定を受けている人は六千人ほどで、うち認知症の人は三千人余りですが、高齢者が増えればこの数はもっと増えると思えます。

この事態に対応するためにも、「認知症サポーター」の養成は急を要する課題です。講座の要点をテキストなどと共にまとめました。  
(さやま市民大学同窓会「認知症」研究会)

同窓会  
主催

## 第2回『認知症サポーター養成講座』を開催

開講に先立ち市民大学同窓会の中嶋亨会長から、「私たち高齢者にとって老後の最大の関心と不安は、家族や自分が認知症になることです。しかし、正しい知識を持って、認知症の人やその家族を支える方法を知っていれば、安心して暮らせる家庭やまちをつくることのできるのです」と、この日の講座の意義を強調した。

講座は、まず「認知症サポーターとは」どんな人かの説明があり、DVDが上映された。

次いで、キャラバン・メイトを講師に、基本カリキュラム(テキスト配布)に沿っての説明がなされた。そして、講師の寸劇による事例が示されて、認知症の人への対応などを学んだ。このあと、受講生をグループ分けして対処法を話し合い、講師からの論評を受けた。



修了後、受講生全員に「埼玉県 認知症サポーター証」と「オレンジリング」が渡された。

### ①★「認知症サポーター」とは？

「認知症サポーター」は、決して「何か」特別なことをする人ではありません。認知症の人やその家族の「支援者」です。

それは、認知症を正しく理解し、偏見を持たず、認知症患者や介護する家族を地域で温かく見守ることがスタートです。

同施策は、2015年1月に厚生労働省が掲げた認知症対策の国家戦略『新オレンジプラン』のひとつ。認知症に関する基本的な知識や認知症の方への対応の仕方などが学習できる「認知症サポーター」を養成するための講座の開催を推進している。

### ②★サポーターに期待される3点

- ①認知症を正しく理解して偏見を持たずに温かく見守る
- ②認知症の人や家族に対して自分なりにできることで支援をする
- ③地域でできる相互扶助、連携、ネットワークに参加し協力する

認知症の人が困っている様子がみえたら、「何かお手伝いすることがありますか」と一声かけてみる。たとえ具体的な援助はできなくても、理解者であることを示すことも大切。その人の尊厳を損なうことなく、応援者となることが期待される。

③ ★認知症の人と接するときの心がまえ

- ①「認知症の本人に自覚がない」は大きな間違い。認知症の症状に最初に気付くのは本人
- ②認知症の人は何もわからないのではない。誰よりも一番心配なもの、苦しいもの、悲しいのも本人なのだ

④ ★3つの心得

- ①驚かせない
- ②急がせない
- ③自尊心を傷つけない

記憶力や判断力の衰えから、社会的ルールに反する行為などのトラブルが生じる場合がある。こんなときは家族と連絡を取り、相手の事情を把握して冷静な対応策を探る。ふだんから住民同士があいさつやこえかけに務めることも大切。日常的にさりげない言葉かけを心がけることは、いざというときの確かな対応に役立つ。

⑤ ★7つのポイント

- ①まずは見守る
- ②余裕をもって対応する
- ③声をかけるときは1人で
- ④後ろから声をかけない
- ⑤相手に視線を合わせ優しい口調で
- ⑥おだやかにはっきりとした滑舌で
- ⑦相手の言葉に耳を傾けてゆっくりと

近づきすぎたりジロジロ見たりは禁物、自然な笑顔で応じる。複数で取り囲むと恐怖心をあおりやすいので、できるだけ1人で声をかける。一定の距離で相手の視野に入ったところで声をかけ、唐突な声かけは禁物。

相手が小柄な方場合は、体を低くして視線を同じ高さにして対応する。早口、大声、甲高い声でまくしたてないで、ゆっくり、はっきり話すよう心がける。

急がせずに、同時に複数の問いかけは避ける。

⑥ ★加齢による物忘れと認知症の記憶障害との違い

加齢によるもの忘れ

認知症の記憶障害

経験したことが部分的に思い出せない	経験したこと全体を忘れている
目の前の人の名前が思い出せない	目の前の人が誰なのかわからない
物の置き場所を思い出せないことがある	置き忘れ・紛失が頻繁になる
何を食べたか思い出せない	食べたこと自体を忘れている
約束をすっかり忘れてしまった	約束したこと自体を忘れている
物覚えが悪くなったように感じる	数分前の記憶が残らない
曜日や日付を間違えることがある	月や季節を間違えることがある

脳の生理的な老化	原因	脳の神経細胞の変性や脱落
体験したことの一部分を忘れる (ヒントがあれば思い出す)	もの忘れ	体験したことをまるごと忘れる (ヒントがあっても思い出せない)
あまり進行しない	症状の進行	だんだん進行する
低下しない	判断力	低下する
忘れっぽいことを自覚している	自覚	忘れたことの自覚がない
支障はない	日常生活	支障をきたす

多くの人は60歳頃になると記憶力に加えて判断力・適応力などに衰えがみられ、知能の老化が始まる。記憶力の老化で物忘れが次第に多くなるが、これは自然なもので、認知症の症状ではない。認知症は情報を処理する脳の機能が低下して日常生活に支障が出てしまう病気。加齢による物忘れは体験した内容の一部を忘れるだけで、体験したことは覚えているが、認知症の場合は体験したこと自体が欠落してしまう。

出典：①～⑤は養成講座教材『認知症を学び地域で支えよう』（全国キャラバン・メイト連絡協議会）。⑥は今回の講座テキストと石心会病院公開講座『知っていますか？ 認知症のこと』（エーザイ刊）から。同病院では9月21日の「世界アルツハイマーデー」に同病院の健康塾の一環として、あさひ病院から講師を招いて、認知症予防の講演会を実施した。

# 活動支援・クラブ活動 会員募集中!

同窓会の部会一覧です。関心がありましたら「連絡先」へお電話ください。

平成28年11月1日現在

会員数は 全体(男・女)

支援とクラブ名	代表者	会員数	入会金	年会費	連絡先	電話番号
学校支援(SSVC)	諸井寿夫	約400(半々)	なし	なし	事務所(プラザ内)	04-2927-1395
	市内公立小中校で、①各教科の授業ならびに放課後・夏期講習で先生の手伝い(無償)、28年度より行政から受託して休日に自主運営の各中学の放課後教室で学習指導(有償)。					
パソコン支援の会	北田勇	23(9・14)	なし	1,000	北田勇	04-2959-2899
	市内の5つの公民館と共催でシニアを対象に「初心者パソコン教室」を開催しており、今年度で15期目。昨年度から市民大学協賛講座(パソコン講座初級)を担当し、今年度は「中級」も。					
福祉支援(チョコラの会)	大内輝夫	18(2・16)	なし	500	大内輝夫	090-4416-3619
	定例会は毎月第3火曜9時30分から社会福祉会館で。活動は各自月1回から2回程度で自分の都合のよい日程で。福祉施設や個人宅を訪問し傾聴を中心に、いろんな指導や手伝いを。					
ウォーキングクラブ	木全英雄	110(53・57)	1,000	上期入会2000、下期1000	木全英雄	04-2955-0640
	県内や近県の低山・里山歩き等「安全に・楽しく・和やかに」がモットー。活動/年9回(貸切バス・電車ほぼ半々)、8.1.2月は自主。会報発行。④入会受付は従来の4月のみから通年に。					
手打ちそば・うどんを楽しむ会	元井一男	22(9・13)	なし	2,000	元井一男	04-2958-4146
	「そばグループ」と「うどんグループ」がある。実習と場所は、そばグループは第3金曜、うどんグループは第4金曜で、ともに9時～12時。会場はともに堀兼農業改善センター調理室。					
SC写真クラブ	戸田尚一郎	20(16・4)	なし	1,000	戸田尚一郎	04-2959-3412
	隔月バスをチャーターして撮影会に出かけ、その写真を見せ合い、先生の講評を受けて撮影技術の向上に励む。文化祭や中央病院での展示、各種写真展に出展し作品を公開する。					
歴史クラブ	村越正治	87(51・36)	500	2,000	村越正治	04-2959-2862
	定例会/月1回、第2水曜午後、元気プラザ。定例見学会 年2回(5月・10月)。会員の研究発表や地域連携活動(自治会と史跡巡り7回)。学園祭、公開講座。7グループの活動月1回。					
グリーンクラブ(ゴルフ)	小林常男	65(60・5)	なし	500	高羅尚典	04-2959-5836
	定例コンペは春季(4月)・秋季(11月)の年2回。狭山市ゴルフ協会主催の大会(年3回)にも参加。今年10月13～16日開催の「日本オープン」(於:狭山GC)にボランティアで参加する。					
パソコンクラブ	宮川澄雄	13(9・4)	1,000	(半年)2500	宮川澄雄	04-2954-2921
	定例勉強会;毎月第3水曜13:30～16:20。Word&Excel を市販の演習問題集を使用して会員が講師を務める。その他、画像処理ソフトによる写真の背景の変更等。					
SSCC太極拳クラブ	鈴木啓二郎	29(18・11)	1,000	1,500	鈴木啓二郎	04-2955-1395
	活動:毎週金曜 19:00～20:30 中央公民館3階。健康医療体術「楊名時式簡化太極拳24式」を講師の指導で稽古。戸外練功や会員懇親会、新年会など会員同士の交流を図る。					
人間科学研究会	山田信子	13(7・6)	なし	(隔年)1,000	山田信子	04-2954-2086
	新刊書を年間約2冊を朗読、話し合いで勉強している。脳に関する新刊書で医師の治療方法や患者との接し方等の診察の新しい方向性を知ること学べる勉強会である。					
古典芸能愛好会	鈴木強	25(13・12)	500	500	鈴木強	04-2952-8617
	早い(近く)美味しい(面白い)安い(お金をかけない)で落語・狂言等日本の大衆芸能を中心に楽しんでいる。新宿末廣亭、国立演芸場等へ出かける。					
うた声さりね(コーラス)	高須晴子	22(3・19)	なし	(半年)1,000	高須晴子	04-2958-5176
	定例会:第1・第3火曜。春、夏、秋、冬の季節の歌を歌い通年歌8曲に定番歌4曲を加えて楽しむ。定例会19回、施設訪問や文化祭、他団体との交流、高齢社会を考える集い等に。					
いきがい学科の会	鈴木強	118(67・51)	なし	500	佐藤武	04-2958-8757
	「認知症サポーター養成講座」の開催。早稲田大学所沢キャンパス祭参加や文化祭参加。脳トレーニング講演会、自衛隊入間基地見学会、狭山市認知症予防講演会等を開催。					
囲碁クラブ	山下邦夫	27(26・1)	なし	1,200	山下邦夫	04-2958-0906
	定例会:月2回 第1・第3火曜 中央公民館。毎回日本棋院普及員が2面碁で指導する。市囲碁連盟等主催の諸大会参加。老人養護施設訪問。近隣市との親睦を深める。					
吹矢クラブ	野地秀多朗	22(15・7)	1,000	500	兼平春雄	080-3542-8747
	定例会:毎木曜 13:30～ 狭山台公民館。競技用的、レクリエーション的、ビンゴ的(団体戦)。暑気払い、忘年会(新年会)を開催。4月に総会・研修会。学園祭、地域連携活動での体験。					
卓球クラブ	小林誠一	20(9・11)	1,000	3,000	小林誠一	04-2959-6830
	例会:月4回、第1・第3水曜 入曽公民館(13時～15時)、第2・第4金曜 狭山台体育館小体育館(13時～16時)。初心者はコーチによる指導と練習マシンによる返球のマスターを。					



# 人間探訪

「ピアノの魔術師」

第4回

高須 晴子さん

いきがい学科はSSCCスタート時の2000年(平12)9月から開講したが、この2期目に普通科とは別に研究科(大脳生理学)コースが半年間だけ増設された。今回のゲスト・高須晴子さんはこの研究科を修了される。高須さんの同窓会との関わりは深く、03年～08年の5期の理事を務められ、現在の「うた声さりね」を創部されている。そして、今春までの32年間は「保護司」を務められ、11年に瑞寶雙光章を叙勲。静岡市出身で、77歳。どんなお方なのか、お話をお伺いした。(構成 中岡義)

## 保護司32年！ 瑞寶雙光章を受章 「うた声さりね」を主導

研究コースを修了した01年10月は同窓会の創設時で、同期生9人と「コーラスの会」を発足させた。のち、14年からは「うた声さりね」に改称しているが、「さりね」とは、狭山のさ、<sup>きと</sup>里のり、<sup>ね</sup>歌声の声、とのこと。

ここへ11年に入会した唯一の男性部員(今は3人)の早川真一さんは高須さんを評されて、「一言で表すなら“ピアノの魔術師”。童謡などは直ぐにその場で演奏してしまう。リーダーとしては周りに気を配り、全メンバーに公平に耳を傾けて、決して自分の意思を前面に押し出さない。尊敬できる方」と、全幅の信頼を置かれている。

1945年(昭20)の8月、生地の静岡市に大空襲があり、両親が死亡されて、6歳の高須さんは4歳上の姉とともに戦災孤児となる。2人は祖父の家に身を寄せたが、実家にあるオルガンを空襲の1週間前に亡き父がリヤカーで運んでくれてあった。音楽との巡り合わせである。

22歳でご主人の叔父の紹介で結婚する1年前まで信用金庫に4年間勤務した。結婚後は都内のアパートなどを移り住み、その途中、ご主人の計らいで念願のピアノを購入した。25歳のときに川越の分譲マンションを求め、今は山王中学前の戸建てに移っている。この間ずっとこのピアノを同伴し、独学ながらその楽しさに飽きることはない。

高須さんはまた、6年前からSSVCの学校支援で山王中学に赴き、2年生の4クラスに家庭科を支援している。内容は、ボタン付けや手縫いでペットボトルホルダーの制作、調理実習などである。

支援しているの感想を伺うと、「生徒さんを<sup>いづ</sup>慈しむ先生と、生气あふれる生徒さんとの交流の場

に居合わせることで、幸せを頂ける活動に感謝している」と話される。

しかし、高須さんを語るときに欠かせないのが「保護司」の仕事である。1984年(昭59)から始めた

法務大臣から委嘱を受けてのもの。非常勤の一般職国家公務員だが、建前はボランティアである。

主な仕事は、非行少年の更生・保護観察で、その「対象者」に月に2～3回の面接を行い、保護観察所に報告すること。今年の5月まで32年間に精勤され、76歳の定年で退職される。

11年の<sup>ずいほうそうこう</sup>瑞寶雙光章の叙勲は感激ではあったが、それより

も授章式の前夜は同伴のご主人と帝国ホテルに宿泊したこと。「主人ともども授章式に臨めたのは、54年間を一緒に過ごせたことへの感謝の気持ちでいっぱいでした」と語られるのだった。

この保護司になる条件は、社会的信望と熱意、時間的余裕、生活の安定、そして健康で活動力がある者とされている。紹介したのは仲川幸成前狭山市長の父の恭平市議だった。仲川さんは、地域社会に役立ちたいとの善意の持ち主である高須さんには打ってつけと推挙されたのである。

長い保護司の経験でつくづく思うのは、「家庭の環境が基で非行に堕ちた子供たちの更生に少しでもお役に立てればというのが願いでした」と話される。

これからの人生への思いは、「主人と1日も長く共にし、庭の草花を愛でながらピアノを奏すること」で、「知り合いになった多くの皆さんとお会いする機会を持ちたい」のが願いだ。



# こんなこと あんなこと

## 同窓会がからむニュースから

### ■ さやま市民大学第3回学園祭 同窓会11クラブが参加

3回目となる市民大学学園祭が10月22日と23日の両日に元気プラザで開催された。テーマは今年も「市民大学でまちづくり」である。

特別講演として、高橋光昭先生の『江戸時代の暮らしから見たまちづくりへのヒント』と大野松茂先生の『郷土の話題 高麗郡建郡1300年』があった。

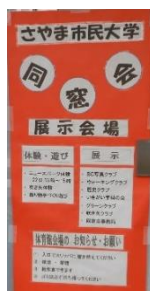
同窓会では、これまでで最も多い11の団体・クラブが参加した。中庭ではいきがい学科の会が焼き鳥を、福祉支援（チョボラの会）がリサイクル品の販売などを、そしてB棟では手打ちそば・うどんを楽しむ会がそば店を開いた。

また、学校支援(SSVC)はA棟自室で展示、B棟1階で歴史が講演、うた声さりねが演奏を。体育館では活動部会のパネル展示があり、SC写真、ウォーキング、歴史、グリーンが参加。吹き矢は実演を、同窓会事務局は活動紹介の展示や飾りつけ遊びの体験を行った。

例年人気の高い楽農学科修了生による無農薬野菜の即売会は、昨今の野菜の異常な高騰のなかで市価の半値以下で販売して、例年に増して好評だった。



上・開会式 下・体育館で同窓会役員が指導してのフラワーリース作り



### 早稲田大学 所沢キャンパス祭



### ■ 早大所沢キャンパス祭 展示や屋台で参加

10月30日に「早稲田大学所沢キャンパス祭」が開催され、同窓会ではいきがい学科の会を中心に参加した。この学園祭への参加は、いきがい学科（現いきがい講座）の受講場所がSSCCの開設当初からこの早大校舎で、講師陣もこの大学を中心に編成されていることから、3年前から参加している。

教室では同窓会といきがい講座の紹介とともに、手作り凧の展示と凧作り教室を開催し、多くの子供や母親が参加した。屋外の屋台では焼き鳥を販売したが、去年の倍の500本を2時間ほどで完売した。

### ■ さやま市民大学体育祭 同窓会関係者チームが優勝

さやま市民大学体育祭が6月25日に市民総合体育館（智光山公園）で開催された。今回は3回目の大会だが、同窓会は初めて招待を受けて、NPO協働ネットらとチームを組み「同窓会関係者チーム」として参加した。

同チームには58人が参集したが、チーム総数は11で、同窓会以外は受講生中心の編成で、単独チーム3組と複数の講座での合同チームが7組である。そして、優勝はダントツの成績で同窓会関係者チームだった。2位はいきがい学科、3位は健康福祉だった。



■同窓会第3回総会 会員交流会 ゲームなどで盛り上がる

6月22日の同窓会第3回総会では、2部として15時から同会場で開催された会員交流会を開催。多数の会員が参加した。内容は腹話術やピアノ＆フルート演奏、ビンゴゲームなどで盛り上がった。



後期講座の3座が募集

さやま市民大学では、平成28年度後期開講講座として3座で募集した。『パパ・ママ』は11月11日が締切で、他の2座は9月14日に募集を締め切り、すでに開講している。

募集状況は次の通りである。

- 地域の防災リーダー養成講座  
入学者21人／定員25人  
(土曜実施。開講 10月1日／閉講 12月10日)
- 地域を支えるソーシャル・ビジネス育成講座  
入学者10人／定員20人  
(隔週金曜。開講 10月7日／閉講 2月17日)
- パパ・ママのお助け隊養成講座(学童期)  
入学者(未定)／定員20人  
(金曜。開講 11月25日／閉講 2月24日)

予告

『そうだったのか 狭山の現代史概説』

次号から連載開始！ ■序説に代えて 筆者；中山眞男さんが語る

縁あって仙台からこの狭山に住み着いてから30年経ちましたが、狭山は実によいところ、住みよいところです。仙台は「杜の都」と称されるように自然豊かなところですが、狭山も同様に自然環境に恵まれ、そして素晴らしい民族文化があり、その保全・維持発展に行政も市民も熱心に取り組んでいます。

まず自然環境ですが、例を挙げれば「入間川河畔のウォーク」に始まり、「稲荷山の花見」「入曽・堀兼の史跡めぐり」など高齢者には健康・文化的な生活が送られるよう環境に恵まれています。

次に民族文化ですが、まず市内には約60の神社・仏閣があり、氏子・檀家の組織、連携も整い、祭祀・仏事をつつがなく展開しています。私は代表的な祭りとして、次の4祭を挙げます。

- ①奥富・梅宮神社の甘酒まつり(2月) ②入間川の七夕まつり(8月) ③広瀬・浅間神社の火まつり(8月) ④入曽・入間野神社の獅子舞(10月)

いずれもスケールが大きく、古い歴史を感じます。言うまでもなく、祭りは春には豊作を祈願し、夏は疫病を払い、そして秋には豊作を感謝するという日本古来の「しきたり」です。

娯楽が少なかった民衆は、「祭りは生きる喜びと相互のコミュニケーションの場」であり、親藩大手の川越藩領地と旗本知行地があつて、自然災害の少なかった当地は平和で豊かな時代が長く続いたのです。市内には、豊富な文化財や歴史的建造物、遺跡がいくつもあります。古くは、延喜式に登場する広瀬神社のお宝や、枕草子に出てくる堀兼の井など研究材料は沢山あります。

さて、「歴史と文化の街、狭山」も市制を始めてから60有余年が経ちます。現在、人口減少や少子高齢化に直面し、財政も厳しい状況に向かおうとしています。



そこで、次号から何回に分けて、“役人でも学者でもない一住民”の立場から「狭山市の現在および将来」を展望した小論、『狭山の現代史』を展開します。ご期待ください。

中山眞男／昭和11年横浜市生まれ、80歳。早大法学部卒。税理士。狭山市監査委員。市民大学同窓会員、同会監事。元同窓会マジッククラブ・トトロ代表。

## ■告知板■ 行事カレンダー

日(曜日)	行事	会場	時間
【2016年】			
11月19日(土)	狭山茶の里ウォーキング	新狭山～入間川河川敷～市駅西口	出発 9:30～11:00
11月15日～12月20日	『同窓会についてのおたずね』	質問票は会報5号と一緒に配布	締切 12月20日
【2017年】			
2月16日(木)	SSVC 創立10周年記念フェスタ	市民交流センター1階	13:00～

### 『同窓会についてのおたずね』にご協力ください。

広報・広聴委員会では、『同窓会についてのおたずね』を実施しています。質問票は今号(第5号)と一緒にお届けいたしました。対象は同窓会員の皆さま全員で、ご回答は無記名、締切は12月20日です。

ご記入いただいた回答票は返信用封筒に入れて、①元気プラザ1階市民大学事務局に設置の回収箱へ投函、または、②切手を貼らずに郵便ポストに投函ください(送料は無料)。ご協力をお願いいたします。

### 【編集後記】

■『ご無沙汰しております』はハングル学科(現韓国語講座)の講師をSSCC開設時から一人で務められている林吉承先生イムギルスン。女性で、52歳とお若い。さやま市民大学など市内外で10クラスの講師を務めるほか、日韓文化友好交流に尽力されている。なかでも、本家日本では廃れつつあるお手玉や竹トンボ飛ばしなど「伝承遊び」を韓国に紹介し、再現される活動は称賛されるものと思います。

■『人間探訪』は「うた声さりね」代表の高須晴子さん。この5月に32年間務められた保護司を退職されたが、4年前にはその功績で叙勲されています。高須さんにお話を伺っていると、随所に口にされるのは「ご主人への感謝の気持ち」です。われら凡夫には見上げるばかりですが、世に「悪妻」と呼ばれる方がおられるとしたら、きっと「耳障り」に響く言葉かもしれません。

■「予告」にあるように、次号(第6号)から『そうだったのか 狭山の現代史概説』を連載します。筆者の中山真男さんは同窓会員ですが、市の監査委員でもあります。この方の狭山の歴史の講演を伺うと、漫談を聞いているようで面白く、聴衆は魅了させられます。それを、現代史に限定して文字に起こしてもらうことにしました。「狭山市誕生の秘話」「人口5倍の急増の大混乱と後遺症」「今後の生き残りは」などがテーマに予定されています。中山さんの狭山市の「将来の展望」までの現代史にご期待ください。

■同窓会のホームページ(HP)を刷新しました。これまでのHPは開店休業状態でしたが、今後は更新をマメに行います。その1つは、会報では『活動支援・クラブ活動』の頁を設けて、3団体と14クラブを紹介していますが、発行が年2回のため情報が古くなる場合があります。HPでは2カ月ごとに更新することになりました。ご閲覧ください。(G)

## ●同窓会の「ホームページ」もご閲覧ください●

さやま市民大学同窓会

ホームページへようこそ

### アクセスの手順

- ① ヤフー、グーグル等の検索欄に「さやま市民大学同窓会」と入力して、「検索」をクリックする。
- ② 「同窓会概要ーさやま市民大学同窓会」をクリックすると、「ホームページへようこそ」が開きます。

●『人生を拓く』のバックナンバーも見られます●

さやま市民大学同窓会 同窓会報『人生を拓く』 2016年秋季号 通巻第5号

- 発行日 2016年(平成28)11月15日
- 編集 さやま市民大学同窓会 広報・広聴委員会
- 発行 さやま市民大学同窓会
- 〒350-1380 狭山市狭山台1-21 さやま市民大学事務局内
- 事務局/電話 090-3514-6002
- E-Mail; nakajima.t@ae.auone-net.jp